

2,500億円をつぎ込む荒川の洪水対策 不要な調節池を三つ造る計画について

= 計画の概要 =



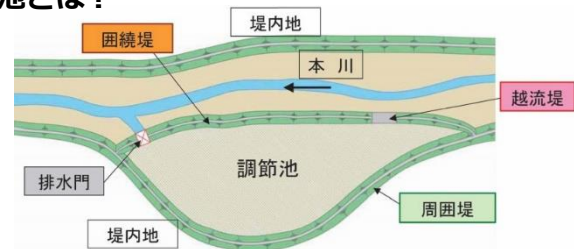
埼玉と東京を流れる一級河川の荒川では1973年に旧建設省により、荒川の洪水・渇水対策として中流部に5つの調節池群の構想がつくられ、そのうち、1999年3月に荒川第一調節池が完成しました。

残りの調節池は机上のプランだと思われていたのですが、2016年3月策定の荒川水系河川整備計画で、第一調節池の上流に治水専用の荒川第二、第三、第四調節池をつくることになりました。

荒川第二～第四調節池の予定地は、下流側はさいたま市桜区、志木市から、上流側は桶川市、川島町まで及ぶ広大なものです。池内面積は第二、第三、第四調節池の合計で約14km²にもなり、既設の第一調節池の2倍以上になります。

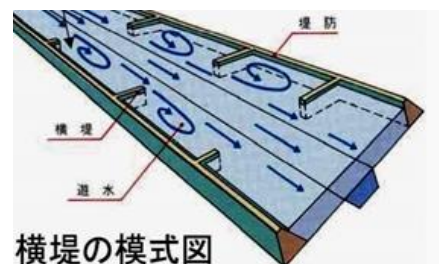
洪水を貯めるために長い堤防を築き、池内の掘削を行います。

洪水調節池とは？



= 荒川第二、第三、第四調節池の 必要性への疑問 =

- ① 第二～第四調節池は、戦後すぐのカスリーン台風洪水の再来に備えて必要とされていますが、当時と比べて森林の環境整備が格段に進み、山の保水力が高まっています。当時のように大きな洪水にはならなくなっています。
- ② 第二～第四調節池の必要性は机上の洪水流量計算から求められたもので、荒川の現状を反映していません。
- ③ 荒川中流域の広大な河川敷には1954年に横堤（左岸14箇所、右岸12箇所）がつくられ、遊水機能が強化されていますので、洪水調節はこれで十分です。
- ④ 2004年完成の荒川第一調節池で、今まで越流があったのは、2007年9月洪水だけで、その越流量はわずか3万m³、調節容量3,900万m³の1/1000で、余裕が十分にありました。これ以上の調節池の建設は不要です。
- ⑤ 第二～第四調節池の建設に約2,500億円という巨額な予算を投じるよりも、河川堤防の強化、越水しても破堤しない堤防の整備を推進する方が、はるかに有効な治水対策になります。



横堤の模式図

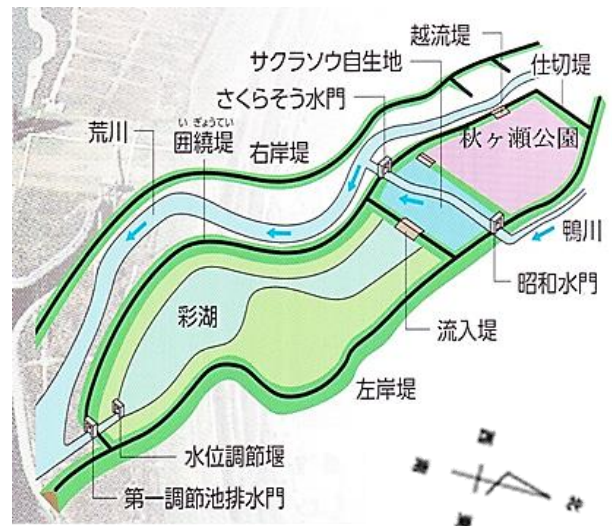
* 荒川第一調節池と彩湖の仕組み *

治水

第一調節池の3つのブロックで洪水を貯留します。荒川の水位が上がると、まずサクラソウ自生地ブロック、次に秋ヶ瀬公園ブロックに水が入り、最後に彩湖に水が流入する仕組みになっています。

利水

荒川の流量が少なくなった場合、彩湖（平地ダム）に貯めた水で補います。さらに、埼玉県南部下水処理場の放流水を、第一調節池内にある浄化施設（礫間接触酸化法）で高度処理したものを河川維持用水として下流に放流し、荒川の水を水道に利用します。



* 予定地の豊かな自然 *

日本有数の広大な高水敷には、かつての荒川の蛇行形状と自然環境をとどめる旧流路や周辺の湿地、ハンノキ等の河畔林が見られ、多種多様な動植物の生息・生育環境を形成しています。旧流路の水域には、ヒシ等の水生植物、トウキョウダルマガエル等の両生類や、メダカ等の魚類が見られ、湿地のヨシ群落と周辺のオギ群落は、オオヨシキリ等の鳥類やカヤネズミ等の哺乳類の生息場として利用されています。ハンノキ等の河畔林には、ミドリシジミ等の昆虫類も生息しています。

（「荒川上流河川維持管理計画」より）

* 事業費と負担内訳 *

荒川第一調節池（全体） 約1,270億円

（利水分）約920億円（東京都、埼玉県、国）

（治水分）約350億円

国 約250億円

埼玉県 約30億円、東京都 約70億円

荒川第二、第三、第四調節池（治水のみ）

約2,500億円（概算）

* 荒川調節池の諸データ *

	面積 km ²	洪水調節容量 万m ³	利水容量 万m ³	概算事業費 (億円)
第一調節池	5.8	3,900	1,060	1,270
第二調節池	6	5,100	0	1,235
第三調節池	3	1,500	0	444
第四調節池	5	3,200	0	682

荒川第一調節池：彩湖は1997年完成、調節池は2004年完成

未来のために
立ち止まる勇気を！